
誤射による心労

麻美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誤射による心労

【Zマーク】

Z3885P

【作者名】

麻美

【あらすじ】

オリ主とカノン・アリサ・ヒバリによって繰り広げられるほのぼの短編小説。攻略ネタあり。

飽く迄短編ですので、本格的に読みたいなと思った方は感想までお越しを。

(前書き)

氣分で書きました。
本格的に書くか、それともこれで終わらせるかは寄せられる感想次
第。

「えっと……今回のミッションは荷電性ボルグ・カムランの討伐か……。んで、一緒に任務に行くのはアリサと……げつ！カノンも！」

？」

マジか……。

カノンとだけは一緒にミッションしたくないんだよな。

だって討伐の時はいつも優しくておらしいカノンが豹変して鬼みたいな性格になるんだもんな。

誤射した時には『射線上に入るなって私言わなかつたけ？』ってキ

れるんだぜ？

極めつけは討伐終わつた後に『私今日誤射が少なかつた気がします』

』って満面の笑みで言ってくるんだよ。

いやいや、お前の誤射は今日も絶好調に一桁いつてたよ？とは口が裂けても言えない。

それはここ、アナグラでの暗黙の了解だからな。

でも悪いことばっかりではない。っていうか悪いことばっかりだったら誰も一緒にミッションをやろうとしないから。

良いことは一つしかないが、それが結構大事だつたりする。いや、結構どころではなく、良い武器を作りたいなら彼女を連れていくべきだ。

何せカノンを連れていつた時に限つてレアなアイテムが手に入るし。それとそれ以外の理由でカノンを連れていく奴もいたな。

確かブレンダンあたりか。『ミッション中のあいつは最高だ！』なんてマゾ発言をしていたつ。

何処が良いんだよ。ただ恐いだけじゃん。あの性格を好きになれるお前がすごいよ。

「あの……タイガさん? カノンさんが……」

「うう……やつぱりタイガくんは私なんかと行きたくないんだ……」

「やらかしたあー? カノンいたのかよー? 」

つていうかヒバリ、それを何故早く言わなかつた……。

「ちょっと……カノン?」

「いいんです! いいんです! 私今日はついて行きませんからー! タイガくんはアリサンと2人が良いんですねー!」

やつべえ……マジでやらかしたパターンだ。

そんな隅っこで蹲られて、こんなとこり他の誰かに見られでもしたら……。

「あれ? どうしたんですか、タイガさん? そんな困った顔して」

ねつ 人生つて思い通りに行かない事ばつかだよ。

アリサ……何故今來た。今日に限つて遅刻とかしてくれよ。いつも真面目すぎるんだよ。

「アリサ……。いや……カノンが……」

「カノンさんがどうかし たんですね。なにしたんですか?」

「タイガさんがカノンさんを傷付ける様な発言をして……。タイガさんも悪気があつたんじゃないでしょうけど、少し配慮が足りなかつたかもしません」

その通りだよ。将にその通りだよ。

だけど……俺だって偶には愚痴の一つくらい零すつて。人間だもの。

だからアリサも俺を蛤蝓を見る様な目で見るな。
いつもみたいに尊敬の眼差しで見てくれ、頼むから。

「早く謝った方がいいんじゃないですか？」「うしていの内にもアラガミが進行してきていますよ？」

確かにアリサの言つ通りだな。

今回は珍しく防衛のミッションだし、早く行くべきか。

「カノン、ごめん。ホントは俺にはお前の大火力のブラストが必要なんだ。ミッションの時に気が強くて頼りになるから、お前に背中を預けられる。でも……ホントはお前にミッションなんかに出て欲しくないんだ。俺はアナグラに帰った時に笑顔でカノンがクッキーを持つってくれるのが一番嬉しいんだ。俺はカノンに傷付いて欲しくない。だから一緒にミッションに出たくないんだ」

「……本当ですか……？」

「ああ

そんな哀しそうな目で俺を見るなって。
こっちまで泣きたくなるだろうが。

「それなら、私……今日も頑張つて撃ちまくりますー。」

「あれ？俺の話の流れからだと今日はミッションでない流れだつただろ？」

「それがなんで逆に自信をつけてるんだ？」
謎だ……。

「タイガさんも上手く口が回りますね」

「は？上手く回るつて……本心だからそんなもんだろ。実際カノンに危険な思いはさせたくないしな。それはお前も同じだぞ、アリサ」

「そ、そうですか……！」は、早く行きましょっ！……！」

アリサのヤツ、そんなに顔紅くする様な事か？

そんなの仲間だつたら、友達だつたら、好きなヤツだつたら当然のことだろ。

それに個体レベルが高いからって荷電力カムラン程度俺一人でなんとかなるしな。

カムラン種つて腹の下入れば攻撃喰らわないし。

「だな。カノン、お前もいつまでも興奮してないで行くぞ」

「あつー！待つてくださいーーー！」

「そんなに慌てなくて待つから、あんまりはしゃぐな。

「今日も無事帰つて来てくださいね？」

ヒバリも心配するな。

俺がこれくらいこの仕事でミスしないことくらいお前もわかってるだ
ろ。

ま、油断はしないけどな。

「あてーー！ 今日も抗うかーー！ 荒神様とやらーー！」

(後書き)

こんな感じの小説ですが、これをしっかりとした長編で読みたい方は感想までお越しを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3885p/>

誤射による心労

2010年12月9日03時03分発行